

米国 悪化ペースの鈍化傾向持続 (09年4月 ISM製造業景気指数)

発表日：2009年5月1日（水）

～新規受注D I の上昇は世界貿易の縮小ペース鈍化を示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001)

○4月のISM製造業景気指数は40.1と前月比3.8%ポイント上昇し市場予想の38.4を上回った。4ヵ月連続の上昇となったうえ、基調の変化を示す新規受注・在庫比率が大幅に上昇するなど、世界的な金融危機の拡大を受け昨年9月以降急激に悪化度合いを強めた製造業部門の悪化ペースは鈍化している。ただし、拡大縮小の分岐点である50を大幅に下回っていること、拡大した業種数が18業種中1業種（前月0業種）にとどまっていることから、製造業部門の深刻な調整は持続していると判断される。

○4月ISM製造業景気指数の40.1という水準はISMによると実質GDP換算で▲0.3%を示すとし、米国GDP成長率のマイナス幅縮小を示唆している。

○輸入D I が前月から9.0%ポイント上昇した一方、輸出受注D I が5.0%ポイント上昇にとどまったことから、純輸出による実質GDP成長率押し上げ幅拡大は期待できない。

また、輸出受注D I が4月に44.0と50を下回っていることは、新興国、日本、ユーロ圏など先進国の調整が続いていることを示すが、前月から上昇しており悪化ペースの緩和を示している。実際、4月の世界製造業景気指数が41.8（前月37.2）と上昇していることから、世界的な景気悪化ペースの鈍化を示唆している。

○輸入D I、新規受注D I（日本の輸出に先行する傾向がある）がともに拡大縮小の分岐点である50を下回っているものの、輸入D I が9.0%ポイント上昇したうえ、新規受注D I が6.0%ポイント上昇したことは日本を含む先進各国、BRICsなど新興国の米国向け輸出の底打ちや世界貿易の縮小ペースが緩和していることを示している。

○世界的な金融危機の拡大によって世界経済が深刻なリセッションに陥ったことから製造業の調整は大幅なものとなっており、ISM製造業景気指数は2009年後半も製造業部門の調整を示す水準で推移すると見込まれる。

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
08/06	49.5	49.3	49.9	44.1	49.8	54.5	47.5	91.5	58.5	46.0
08/07	49.5	44.9	52.0	51.0	45.4	54.1	43.0	88.5	54.0	46.5
08/08	49.3	48.2	51.3	48.0	48.4	50.5	43.5	77.0	57.0	48.5
08/09	43.4	39.2	41.0	40.9	44.0	51.8	35.0	53.5	52.0	44.0
08/10	38.7	32.4	33.6	34.2	44.0	49.3	29.5	37.0	41.0	41.0
08/11	36.6	28.1	32.0	34.3	40.1	48.6	27.0	25.5	41.0	37.5
08/12	32.9	23.1	26.3	29.9	39.6	45.7	23.0	18.0	35.5	39.0
09/01	35.6	33.2	32.1	29.9	37.5	45.3	29.5	29.0	37.5	36.5
09/02	35.8	33.1	36.3	26.1	37.0	46.7	31.0	29.0	37.5	32.0
09/03	36.3	41.2	36.4	28.1	32.2	43.6	35.5	31.0	39.0	33.0
09/04	40.1	47.2	40.4	34.4	33.6	44.9	40.5	32.0	44.0	42.0

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

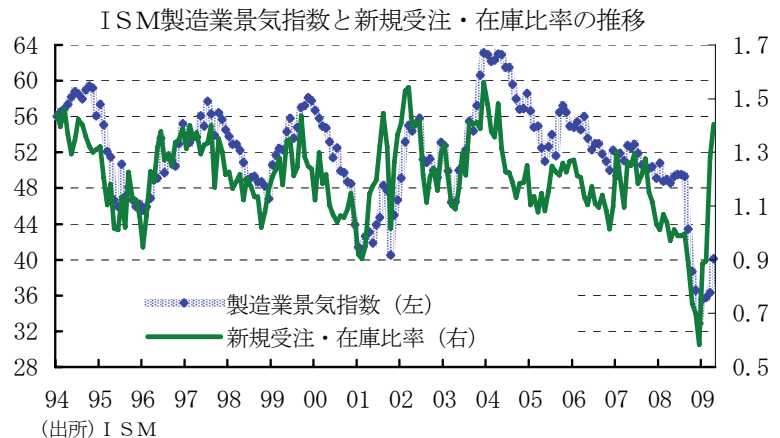
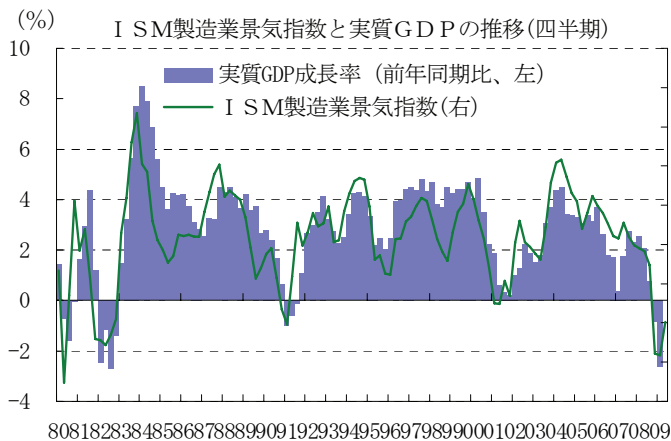
40.1 と前月比

3.8%ポイント上昇

4月のISM製造業景気指数は40.1と前月から3.8%ポイント上昇し、市場予想の38.4を上回った。4ヵ月連続の上昇となったうえ、基調の変化を示す新規受注・在庫比率が上昇しており、製造業部門の悪化ペースは鈍化傾向を辿っている。ただし、景気指数は拡大縮小の分岐点である50（景気後退を示す水準は41.2）を大幅に下回る低い水準にとどまっているうえ、拡大した業種数が18業種中1業種（前月0業種）となっていることから、製造業部門の大幅な調整は持続していると判断される。

また、4月のISM製造業景気指数の40.1という水準はISMによると実質GDP換算で▲0.3%を示しており、米国成長率のマイナス幅縮小を示している。

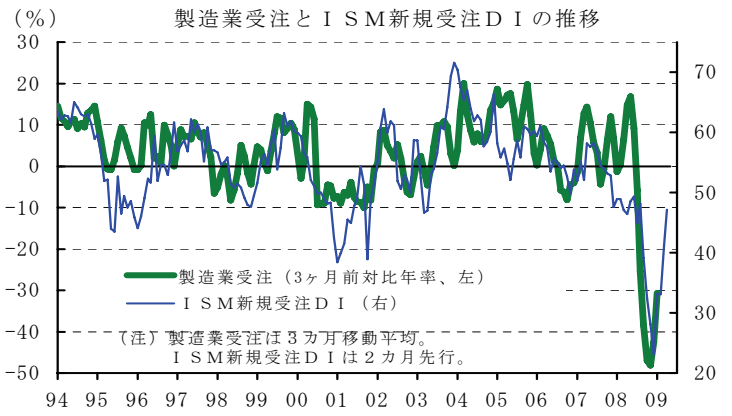
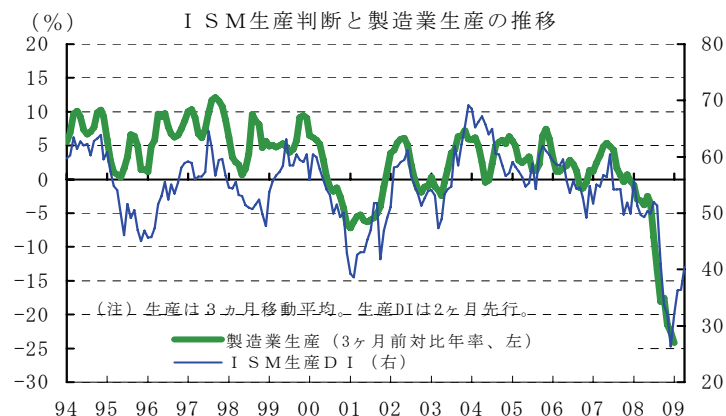
今後に関しては、世界的な金融危機の拡大によって深刻なグローバルリセッションに陥ったため、製造業部門の調整は大幅なものとなっており、ISM製造業景気指数は2009年後半も製造業部門の縮小を示す水準で推移すると見込まれる。



生産は小幅なマイナス縮小に

個別にDIをみると、4月の生産DIが前月から4.0%ポイント上昇したが、50を大きく下回っていること、生産の拡大した業種数が3業種（前月2業種）と僅かな増加にとどまっていることから、予想される4、5月の製造業生産（FRB、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）のマイナス幅縮小も小幅なものにとどまる可能性が高い。

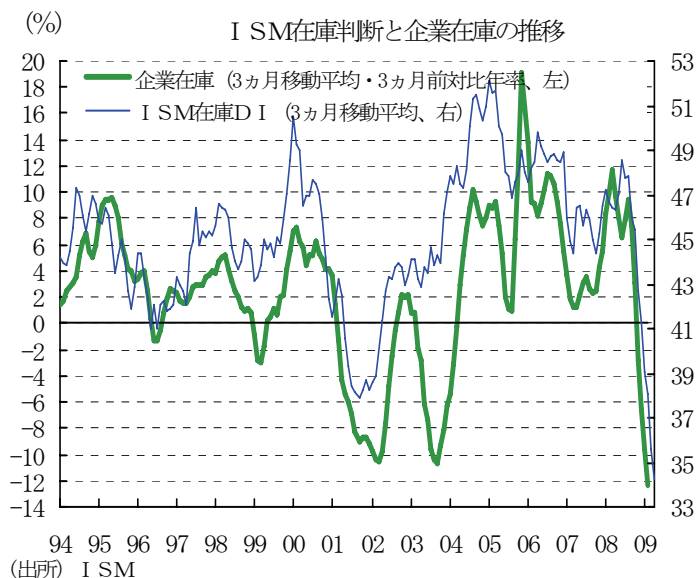
一方、4月の新規受注DIは47.2（前月41.2）と前月から6.0%ポイント上昇したことから、製造業受注（商務省、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）のマイナス幅縮小が今後も持続すると見込まれる。しかし、新規受注DIは50を下回っていること、拡大した業種数も6業種（前月6業種）にとどまっていることから、製造業受注が拡大に転じるには時間がかかろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

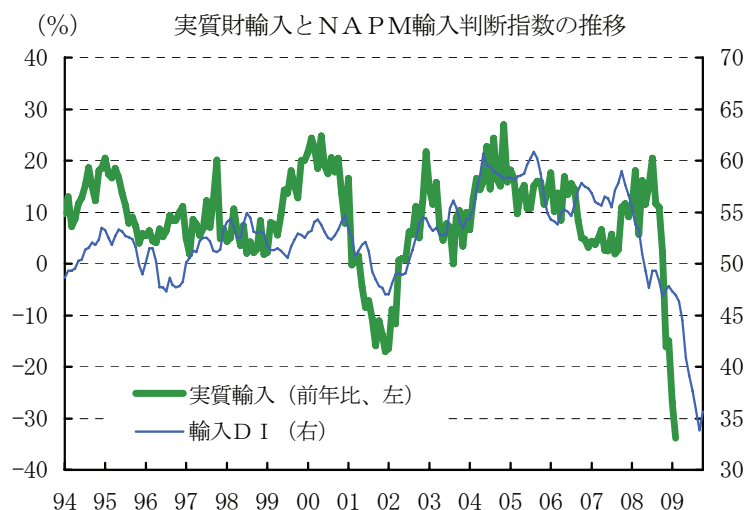
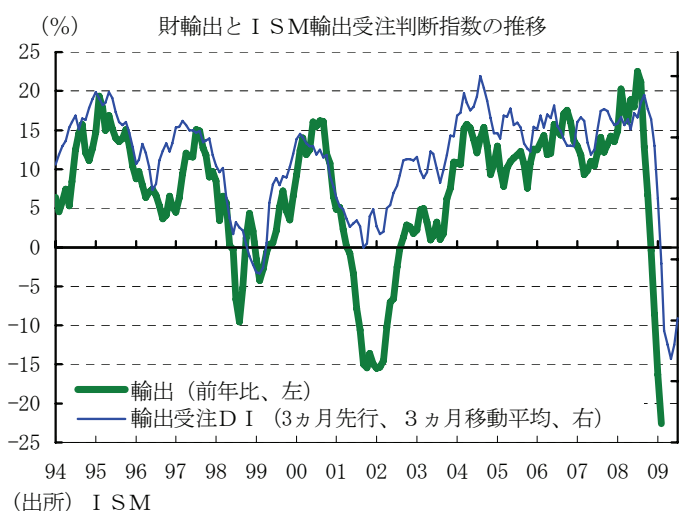
在庫削減圧力は強い まま

在庫面では、在庫D Iが33.6（前月32.2）と1.4%ポイント上昇したが、50を大幅に下回っているうえ、在庫が増えた業種数も18業種中1業種（前月1業種）にとどまっていることから、企業による一段の在庫削減を示唆している。ただし、「新規受注が減少するなかで在庫の増加した業種」は1業種にとどまっており、需要の縮小に大きく遅れることなく在庫の削減が行われている。



輸出（前年比）の 悪化に歯止めがか かることを示唆

外需に関しては、輸入D Iは42.0（前月33.0）と9.0%ポイント上昇したが拡大縮小の分岐点である50を大幅に下回っていることから、輸入（通関統計）の大幅減少が見込まれる。また、輸出（通関統計）に3ヵ月先行する「3ヵ月移動平均の輸出受注D I」は50を大幅に下回っているため、輸出（通関統計）の減少が続くと予想される。ただし、2ヶ月連続で前月から上昇していることから、輸出はマイナス幅を縮小すると予想される。



**製造業雇用の減少
ペース小幅鈍化**

雇用関連では、雇用の増加した業種数が0業種（0業種）、雇用指数は34.4（前月28.1）と低水準にとどまっているが、前月から上昇したことから、4月の製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）の減少幅が小幅縮小することを示唆している。

**川中での物価下落
圧力は強いまま**

インフレ関係では、仕入価格D Iが4月に32.0（前月31.0）と上昇したことから、遅れて同様の動きをするP P I（中間財コア）は5月にかけて3ヵ月前対比年率でマイナス幅を縮小するが小幅なものにとどまるとみられ、川上での物価下落圧力が強い状況には変化は生じないだろう。

